

小・中学校段階における病弱児指導 7 指導のヒント

病弱・身体虚弱特別支援学級での教科指導に関して指導のヒントを紹介します。

(◇；子の実態(例) ◎；ヒント)

《 国語科の指導 》

- ◇心情の読み取りが苦手。気持ちの文章化や言語化が苦手。
- ◇決まりのある文法の学習や漢字の反復練習は、取り組み状況は良好。
- ◎物語文の心情の読み取りよりも、取り組みやすい説明文をステップ1として活用。段落の要点を整理する際に、穴埋め形式のプリントを自作準備。この学習をベースに物語文の要点整理も穴埋め形式で行うと、物語のあらすじが整理される。感想を文章化する際は、質問に答える形で言語化できる。
- ◎詩の学習を通じた「感情表出」活動設定。子どもの様子から、「感情表出」の状態を4段階で捉えて、「音読」「視写」「改作」「会話」の各段階の指導を経て、「創作」。不快な感情も含めて、自由に感情を表出する場（環境）づくりが肝心に。

《 算数・数学科の指導 》

- ◇治療や体調不良のための欠席で、学習空白のまま、進級。
- ◇自身の理解状況よりも、同学年の学習進度を気にする。
- ◎教科書どおりに進めることよりも、単元ごとに現学年と前学年（場合によっては全学年）の内容を織り交ぜて学習。
- ◎意味も分からずに公式を覚えることに時間を費やすことを減らす。

《 社会科の指導 》

- ◇地図記号や史実等を覚えることは取り組みやすい。
- ◇歴史や地理において、国や人物の立場や考えを総合的に判断することが難しい。
- ◎教科書から得られる情報だけでなく、現実のものとして、映像、写真、説明等を組み合わせて指導。

《 理科の指導 》

- ◇学習した事項を実際の生活に活かす発想が不足。実体験が伴わないと、理解困難。
- ◇単なる知識の積み重ねで、総合的な見方や探求心の育ちが困難。
- ◎直接的に実験や観察が困難な環境のとき、画像や動画を活用し、具体例を提示。
- ◎学習で得た知識と身近な事象との関連付けのために、単元ごとに内容に関連した具体例を提示する。

病気の子どもたちの「発達しようとする働き」「よりよく生きようとする働き」が、活性化するような援助のポイント

- ◎活動に見通しを持ちやすくする
- ◎共感的な関わりをたくさん経験する
- ◎その子ども自身の「分かり方」を大事にした関わりを行う
- ◎温かな雰囲気、人間関係を基調とした中で、実践を行う

「管理」「放任」ではない「寄り添い、援助する姿勢」が求められる